

われ5

サークル仲間

花おうち俳句会



今回は小田村公民館で活動している「花おうち俳句会」を紹介します。

「花おうち俳句会」は昭和三十八年以來二十八年という歴史を持っています。メンバーたちも始まった当初からやっている人もおり、みんなベテランぞろい。「濃厚で魅力いっぱい」の池積章先生を中心に現在四十歳代から六十歳代の十人が月に一回の集まりを心待ちにしています。

各自が、作ってきた句を発表したり、批評し合ったり、あつという間に時間が過ぎていきます。自分の句が選ばれると皆さん、さもうれしそうに照れた様子。

「とても勉強になります。でも何よりもこの会や先生が好きで、長い間続けてきました」と話してくれました。

◇ このコーナーでは、各地区の公民館で楽しく活動している皆さんを紹介しています。

子育ての広場

ひとり遊びで満足していた乳児期を過ぎると、子どもはだんだん外に出たがるようになりまます。お母さんは、できるだけたくさんの子どもたちと接することができるよう工夫してあげましょう。

どんなによい親子関係ができて、親子という関係だけではない自立心は育ちません。

昔は家の中においても兄弟姉妹が多かったので、お互いに励まし合ったり、けんかをしたりという対等のつき合いを経験することができたのですが、最近では、一人か二人の家庭が多くなり、兄弟姉妹によってヨコの人間関係を経験することが少なくなりました。

友だち

子ども同士の間で
家庭教育学級専任講師 秦泉寺 千津



かになることもありましたが、子どもには大勢で行動することが多く、こうした集団活動が社会性を身につけるのに欠かせない体験となっていました。今の子どもにはこのような体験がほとんどありません。



友だちづきあいは、親では教えられないさまざまなことを学ばせてくれます。小さい頃から友だちとふれあいながら成長した子どもは自分の思っていることが主張でき、また、相手のことも考えます。友だちと遊ぶことにより、協力や親切、ゆずり合い、忍耐などの人間関係を学んでいくのですから、集団遊びは子どもの発達にとって重要な役割をもっています。

一般に友だちづきあいという、すぐ誰でも仲よくと考えがちですが、小さい頃の友だち関係は、それぞれの子どもが自分の中にあるものを出し合い、相手とぶつかり合う中で相手のことも尊重しようとする気持ちを持ったり、遊びの楽しさを共有したりすることによって育っていくものなのです。

友だちのおもちゃを借りた